

第1学年1組 道徳学習指導案

指導者 T 1 小林 圭子
T 2 宮園 理恵

1 主題名 やさしいこころで 2 – (2) 溫かい心・親切

2 主題設定の理由

(1) めらいとする価値について

内容項目2 – (2) は、「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。」である。「親切にする」ということは、相手の立場や気持ちを考え、思いやり、いたわる温かい心である。人と人との温かい結びつきをつくり、円満な人間関係を築く上で欠くことができないものと言える。それは、単に自分の思いこみや自己満足のためではなく、相手の立場に立ってその心情を思い、自分のこととして受けとめることが大切である。

本校のテーマは「自己を見つめながら、よりよく生きることをめざす児童の育成」である。ここでは、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深めさせたい。そして、相手のことを考え、やさしく接し、親切な行為ができるようにしたいと考え本主題を設定した。

(2) 児童の実態について (男16人 女子7人 計23人)

本学級の児童は、まだ、幼児期の自己中心性が残っており、相手の立場に立って考えることは、できにくい。しかし、一方では、困っている友達を助けたいという気持ちも芽生えている。また、入学以後、保育所などの年下の子どもたちとの交流がほとんどないことから、幼い子に對しては自分からやさしい気持ちで関わろうとする気持ちは少ないようと思われる。

そこで、次のような意識調査をした。

(10月6日 23人調べ)

1 けいことゆきこが公園でじやんけんであそんでいました。小さい女の子が一人、私たちのほうをみていました。そのうち、ひとりでじやんけんのまねをはじめました。女の子はこつちをみています。そのとき、あなた はどうしますか。

【判断】

・進んで遊びに入れてあげる。	17人	【心情】	・小さい子だから	2人
・お母さんに言われたら入れてあげる。	4人		・みんなで遊ぶと楽しいから	3人
			・かわいそうだから	12人
			・お母さんに言われてかわいそうだと思つたから	2人
			・お母さんに言われたことは、守るから	2人
・知らない人なので入れてあげない。	2人		・知らないからさそわない	2人
2 しんせつにされてうれしかったことは、どんなことですか。(複数回答)				
・「あそぼう」といってもらった。	7人			
・ものをわすぐれたとき、かしてもらった。	5人			
・わからないときに、おしえてもらった。	4人			
・わすぐれた。	10人			

アンケートの結果から、半数以上の児童が「遊びに入れてあげる」と選んでいる。親切にすることがよいこと、されるうれしいことは、わかっているものの実際の様子を見ていると仲のよい子には親切にするが、相手の気持ちを考えて行動できる親切な児童ばかりではない。みんなが相手の気持ちを考えて、わがままを抑え、親切な言葉かけや行動をとろうとする気持ちを育てていきたい。

本時では、資料提示の工夫として、紙芝居形式にし場面の状況をしっかりと把握させ、おおかみの気持ちの変化に共感させるために役割演技を取り入れたい。役割演技については、経験が少ないので、教師と一緒に行ったり、ペアで役割演技をしたりして登場人物になりきっておおかみの気持ちを考えさせたい。また、親切なくまを見送っているおおかみの気持ちを丁寧に扱い、やさしくすることの気持ちよさに気付かせ、温かい心に結びつけたい。さらに、TTの利点を生かし複数の教師で児童を見ることにより、児童一人一人の考えを引き出し、その考えを発表し合う中で、多様な考えに触れさせ、めらいとする価値に迫りたい。発問、板書なども分担し、児童の思考がとぎれないように進めていきたい。

(3) 資料について (読み物「はしのうえのおおかみ」文溪堂)

主人公のおおかみが、うさぎたちを相手におもしろがっていじわるを続けるが、ある日自分より力の強いくまにで会った。そのくまに、思いがけず優しく橋を渡してもらったことで、自分の行

為を振り返り、反省し、今度はくまのまねをして優しい心で親切にすることという内容である。他の動物たちに威張って偉そうにすることよりも、親切にしてあげることのほうがずっといい気持ちになれる。と気づいたおおかみの気持ちの変化を追いながら、親切にされたときの気持ちをとらえさせることを通して、親切にすることの大切さに気付かせる資料になっている。

3 体験と道徳をつなぐユニット学習について

内容項目2－(2)「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。」ことの実現を目指し、事前では、保育所を訪問する。

保育所で劇を見せたり、一緒に遊んだりする体験を通して身近な幼い子にやさしく接し、温かい心で接し親切にしようることは、どのようにしたらよいかについて考えたことをもとに、次の道徳では、身近にいる幼い人や高齢者などに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

事後では、生活科の「みんななかよし」の学習の一つとして「あきまつりをしよう」の学習を行い、保育所の園児を招待する。園児と直接ふれあう活動を通して、やさしい心で接すると自分も相手もいい気持ちになることに気づき、幼い子に親しみをもち、温かい心でやさしく接しようとする態度を養いたいと考える。

ユニットIV 「親切にしよう」のねらい

保育所に行って園児とふれあったり園児を招待したりする体験を通して、友達と仲よくたすけあいながら、幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を養う。

教科・領域	各時間のねらい	児童の意識
国語科	『サラダでげんき』 国語科の学習の発表会「サラダで元気」の劇を園児に見せたり、一緒に遊んだりして楽しく過ごすには、どのようにしたらよいかを考え、劇を発表し触れ合っていくことにより、身近な幼い子にやさしく接することの大切さを知り、温かい心で接し親切にしようとする学ぶ場にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいいね。 ・わかりやすいようにしよう。 ・ゆっくりはなしてあげよう。 ・大きな声で話してあげよう。 ・たのしく過ごしてくれたかな。 ・やさしくおせわをしてあげよう。 ・わからなかったら、おしゃてあげよう。 ・優しくしてあげたいな。
↓	事前の国語科の学習を通して、身近にいる幼い人などに思いやりの気持ちをもち、温かい心で接していくこうという気持ちを次の道徳2－(2)「はしのうえのおおかみ」で深めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・親切にされるとうれしい。 ・親切は、気持ちがいい。 ・親切にすると、自分も相手もいい気持ちになるね。 ・これからは、みんなに親切にする。
道徳	『はしのうえのおおかみ』2－(2) 温かい心、 親切 身近にいる人に温かい心で接すると、自分も相手もいい気持ちになることに気付き、進んで親切にしようとする心情を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して、おせわをするよ。 ・保育の子に優しくしたよ。 ・ありがとうといつてもらってうれしかったよ。 ・お兄さん、お姉さんといわれてうれしかったよ。 ・えらいねといわれてよかったです。 ・優しくすると気持ちがいいね。 ・これからもみんなに親切にするよ。
↓	国語科や道徳の学習を通して、「身近にいる幼い人や高齢者などに温かい心で接し親切にしようとする心情を育てる。」ということを図るために、次の生活科では、園児を招待し秋祭りを実施する。	
生活科	『あきまつりをしよう』 友達と一緒に、保育所の園児を招待して秋祭りをし、園児に親切に接することを通して、幼い子に温かい心で接し、親切にしようとする態度を養う。 幼い子に温かい心で接することの大切さを知り、親切にしようとする態度を育てる。	

4 ねらい

身近にいる人に温かい心で接すると、自分も相手もいい気持ちになることに気付き、進んで親切にしようとする心情を育てる。

5 展開

主な活動と発問	予想される児童の反応	・支援 ◎評価	
		T 1	T 2
1 おおかみの絵を見て、どんなおおかみか想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・こわそう。 ・体が大きい。 ・力も強い 		<ul style="list-style-type: none"> ・お話の中で登場するくまの様子と関連づけられるようにほかの動物より大きく強そうに見えることを確認する。
2 資料「はしのうえのおおかみ」を読んで話し合う。 ○「もどれ、もどれ。」といつて、うさぎ、きつね、たぬきを追い返したおおかみは、どんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・おれは、おまえたちよりつよいんだ。 ・みんなよわむしなあ。 ・いじわるは、おもしろい。 ・おれが1番でいい気持ち 		<ul style="list-style-type: none"> ・おおかみの絵を見せる。 ・紙芝居を用いて内容が把握できるよう、ゆっくり範読する。 ・場面を示す絵を貼ったり、児童の意見を黒板にまとめたりする。 ・考えのまとまらない児童には、一緒におかげの気持ちを考える。
○「もどりましょうか」と言ったおおかみは、どんな気持ちだったでしょう。 ○「こうすればいいのさ」とくまに抱き上げられ、下ろされたとき、おおかみは、どんな気持ちになったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・まずいなあ。大きいのが来たよ。 ・大きいからこわいなあ ・いやだなあ。 ・ぼくがもどるよ。 ・やさしくまさんだ。 ・なんて親切なんだろう。 ・こわくなくてよかった。 ・ぼくとは、ちがうな ・優しくしてくれてうれしかった。 ・さっきは、いけないことをしてしまったな。 ・ぼくもくまさんみたいにすればよかった。 ・これからは、みんなに優しくしよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・はしの上のやりとりからくまの後ろ姿を見送るところまでを、役割演技によって表現させ、考えを深める。 ・動物のお面を用意し、おおかみの気持ちをペアで動作化させてから発表できるようにする。 ・教師がくまの役をし、おおかみ役の児童を抱き上げる。 ・その後、児童に気持ちを聞き、おかげも力の弱い動物たちと同じ気持ちになり、くまに親切にされてた時のうれしさや喜びを感じ取らせる。 ・いつまでも見送っていたおかげの心の動きを中心に感じさせたい。 ・おかげの心の変化を感じ取らせる。
○うさぎに優しくしてあげたおかげはどんな気持ちにだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎさんたちがよろこんでくれたからうれしい ・みんなが、ありがとうっていってくれてよかった ・親切をしていい気持ちになつた。 ・親切にすると嬉しくなる 		<ul style="list-style-type: none"> ・親切な行為が、心を豊かにさせ喜びにつながることをに気付かせる。 ・「えへん、へん」と声に出して言ってみることで、最初に言った「えへん、へん」との声の違いに気付かせ、初めの場面よりもずっといい気持ちになっているおかげに共感させる。
3 自分の生活を振り返る。 ○小さい人にやさしくしたとき、あいでも自分もいい気持ちになったことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の子のしたい遊びをした。喜んでくれて嬉しかった。 ・「一緒に遊ぼう」って誘ってあげたよ。 ・「いいよ」って言ってくれてうれしかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験が思い出せない児童には、このノートP42～43などを開いてみるように助言する。
4 ゲストティーチャーの話を聞く。 ○保育所の先生の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・お礼を言ってくれてうれしい。 ・次の秋祭りでも楽しくしよう ・もっと優しくしてあげよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ◎身近にいる幼い子の気持ちを考えて、親切にしようとする気持ちがもてたか。(話し合い) ・保育所の先生の一年一生の成長を認める話を聞くことで、もっと優しくしようとする意欲を高める。

- 1 どうとくのじかんに、ともだちのかんがえをよくきいて、じぶんのかんがえをもつことができましたか。

よくできた 1	だいたいできた 2	あまり できていない 3	ほとんど できていない 4
------------	--------------	--------------------	---------------------

- 2 今までより、ちいさいこやおとしよりなどによりにしんせつにしようというきもちがもてましたか。

よくできた 1	だいたいできた 2	あまり できていない 3	ほとんど できっていない 4
------------	--------------	--------------------	----------------------

- 3 ほいくしょほうもんでは、じぶんのやることやじぶんにできることを、いつしょうけんめいできましたか。

よくできた 1	だいたいできた 2	あまり できていない 3	ほとんど できていない 4
------------	--------------	--------------------	---------------------

ふ
ユ
ニ
ツ
ト
「
し
ん
せ
つ
に
し
よ
う
」
を

- 3 ユニットがくしゅう「しんせつにしよう」の中でかんがえたことやおもったことをかきましょう。

なまえ